

---

# シスター、たくさんの告白をあなたに。

喜多千住

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

シスター、たくさんの告白をあなたに。

### 【Nコード】

N7338F

### 【作者名】

喜多千住

### 【あらすじ】

彼の新米シスターへの告白は、一年に一度の定例行事であった。しかし、ある告白を最後に、彼は消息を絶ってしまふ。長い年月の後、再びシスターの元に現れた彼の告白とは？

最初の告白は、とても他愛のないものだった。

彼は中学生。彼女は新米シスター。告白の小部屋。カーテンの向こう側から聞こえてきたのは、か細いおびえた声。

「ボク、カンニングをしまいました・・・」

それから一年に一度、彼の告白は定例行事となった。決まった日、彼の誕生日に。「これが一年ごとのけじめなんですよ」、と彼はにこやかに笑っていた。

それがピタリと途絶えてから、長い年月が経ち。この日、彼は突然現れたのだった。

最初に出会ってから、十二回目の告白。

「ボクは愚かな男でした」

十二年の歳月は、少年を立派な大人にしたけれど、優しい落ち着いた物言いは、昔も今も変わってはいない。

「ボクは心から大切な人を裏切ってしまった。傷つけてしまいました」

カーテンで表情は見えなくとも、悲痛な想いは言葉で伝わる。

「あの時は、これが最善な方法だと考えていました。彼女に何も伝えずに、姿を完全に消すことが。彼女を決して巻き込みたくはなかった。迷惑をかけたくなかったのです」

「吉見さんから、聞きました」

シスターは口を開いた。彼は、この日最初に聞いたシスターの声に、ハツと顔を上げた。シスターは続けた。

「あなたを巻き込んでしまったことを、吉見さんは心から悔いていましたよ」

「そうですね・・・」

彼は静かに言う。吉見は、今なお行方が分からない。ややあつてから、彼が。

「借金の返済は未だ終わっていません。でも、ここを離れてから、精一杯働きました。借金を半分まで減らすことができました」

誠実さがにじむ声だった。

(そう！アナタは何も悪くはない！)

シスターはきゅつと小さな手を握りしめる。

吉見さんの保証人を引き受けた彼は、失踪した親友に変わって借金を背負ったのだった。

長い沈黙が流れた後、シスターが口を開いた。

「八回目の告白を覚えていますか？」

感情を抑えた声だった。

「一年に一度の恒例の告白。あの時は、いつもと違っていました。それに、私が答えたこと」

「よく覚えています」

彼は、はつきりと答える。

「ボクは、あの時の大切な約束を破りました」  
堰を切ったように続けた。

「ボクは迷惑をかけたくなくて、去ることを選びました。でも、本当は、自分のためだったのです。自分が可愛かったから！弱い自分を守りたかったから！借金を抱えて狼狽する、無様な自分を決して見せたくなかった。正気を保って、笑っていられる自信がなかった。ボクは臆病です。ボクは逃げ出したんです。全てから。勇気のない、不甲斐ないボクは、一緒に戦うことができなかつた。彼女の手を取り、共に困難に立ち向かうことができなかつた！」

シスターは穏やかに言う。

「あの時……。私はとても嬉しかったです……」

心の中で、今も暖かく響いている、彼の告白。

(一緒にいましょう。楽しい時も苦しい時も、いつも一緒にいましょう)

「私はあなたと一緒に、苦しみも共にしたかったのに……」  
ホロリと涙が頬をつたった。

「ボクは彼女を、・・・あなたのことを・・・、ずっと想っていました。どんなに苦しい時でも、心がくじけそうになった時でも、あなたの笑顔を思い返して、一步一步前に進みました。いつの日か、あなたと再会できる日だけを夢見て。こんな情けない自分ではなく、堂々と胸を張って、あなたを迎えにいこうと。でも、気付いたんです。あなたに何の便りもよこさずに、あなたを一人にさせたまま、ボクは自分のことだけを考えている。あなたを遠くで想い続けるなんて、手前勝手なキレイゴトだ。立派になってから会いに行く・・・。それは、単なるエゴだ！ボクはいつも自分のことだけで、あなたの心から目をそらし続けた。あなたはいつも、ボクに力をくれたのに。ずっと見守り続けてくれたあなたを！ボクはアナタとの約束を果たしていません。あの時からの長い長い時間、あなたにボクがしてしまったことを償うことはできません。でも、どうか再び告白させてください。ボクは未だ弱い人間です。借金も未だ抱えたままです。あなたに苦勞をさせてしまいます。あなたにツライ思いをさせてしまいます。でも、ボクはあなたと一緒にいたいのです。あなたと共に、歩んでいきたい。あなたを見ていたい。あなたの苦しみや喜びを共に分かち合いたいです。どうか、あなたの側にいさせてください」

シスターはゆっくりとカーテンを開ける。涙に濡れた満面の笑顔。「お帰りなさい、弘幸さん」

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n7338f/>

---

シスター、たくさんの告白をあなたに。

2011年1月15日20時58分発行